

病院で働く 医療のプロフェッショナル

病院では、治療を行う医師や看護師をはじめ、さまざまな職種のスタッフが働いています。その多くは専門性の高いスキルや知識が必要で、国が認める国家資格を有していなければ就けない職種がほとんどです。日進月歩の現代医療に携わる仕事であるために、常に専門知識を磨く努力をする必要があります。高度な専門技術に加えて、コミュニケーションスキルや人間性なども求められます。また、一人の患者さんに複数の医療スタッフが連携して、治療やケアを行う「チーム医療」にも取り組んでいます。

理学療法士の仕事について

Interview

～理学療法士・熱田 翔平 (2年目)～



理学療法士という職業を選んだきっかけは？

小学校から高校まで野球部に所属して、漠然と「運動を指導してみたい」、「痛みを和らげてあげられる仕事に就きたい」と考えていました。中学生のとき、いろいろ調べる中で理学療法士に興味を湧き、仕事内容も自分の思いに近いのではないかと感じていました。

中学3年生のときの『夢 発見プログラム』の職場体験で理学療法士と話す機会があり、その中で患者さんに感謝されると大きな喜びややりがいがあるということを知りました。この出会いがきっかけで理学療法士という仕事をめざしたいと強く思うようになりました。

市立病院で働こうと思った理由は？

高校時代に大東高校の野球部に所属していました。試合だけでなく、普段の練習のときから多くの市民の方に応援をいただきました。その度に地元の方に支えられていると感じました。その感謝の思いがあり就職先を考える際、支えてくださった雲南地域の方々のために貢献したいと思い、迷わず市立病院を志望させていただきました。また、市立病院は急性期だけでなく回復期や慢性期、訪問リハビリなど幅広くリハビリを提供しているのも魅力でした。

どんな仕事をしていますか？

現在は回復期リハビリテーション病棟のリハビリを担当しています。理学療法士は「寝返り・座る・立つ・歩く」などの日常生活動作が病気やケガ、生まれつきの原因でうまく行えない方に対し関わる仕事をしています。失ったものを回復・改善させるだけでなく、今ある身体機能を維持したり、一人ひとりの目標に合ったリハビリのプログラムを作成し関わっています。



市立病院で働いてみての感想は？

とても雰囲気がよく真面目に楽しく仕事ができます。また、先輩に質問や相談がしやすい雰囲気だと感じています。私は大東町民で患者さんと地元の話ができるほか、患者さんがいろいろなこととお話していただけるので退院後の生活を理解できることが自分に合っていると思っています。

将来どのような理学療法士になりたいと思っていますか？

子どもから高齢者まで、また、さまざまな病気やケガをされた方、一人ひとり違う背景や環境を持つ方に寄り添い、その人らしさをサポートできる理学療法士になりたいです。そのために現在担当している患者さんに全力で向き合い、しっかりと力をつけていきたいと思っています。

理学療法士の仕事のやりがいを教えてください。

私はまだまだ数多くのことを学ばないといけないですが、患者さん自身が「立つことができた」「上手に歩くことができた」などの状態の改善を感じたときの驚いた顔や嬉しそうなお顔を見ることがこの仕事のやりがいだと思います。また、患者さんに直接触れ、患者さんやご家族のために尽くせることが理学療法士のいいところではないかと感じます。そして私は患者さんの笑顔が仕事をする原動力になっています。

雲南病院だより

看護研究発表会

看護師は専門職で、より質の高い看護を提供していくために、看護の専門的知識や技術を研鑽する責務を負っています。当院でも、このような看護専門職者としての目的を持って看護研究に取り組んでおり、院内看護研究発表会を毎年行っています。今年度は7月8日(日)に開催し、4階東病棟、4階西病棟、3階西病棟、手術室の4部署が発表しました。会場からは多くの質問もあり、活発な議論が行われ、有意義な発表会となりました。ここで発表した研究は、より完成度を高め、さまざまな学会での発表と論文の投稿を行う予定です。



- 【演題】
- 4階東…回復期リハビリテーション病棟への転棟時の不満や抵抗感の軽減
- 4階西…整形外科の治療を必要とする認知症患者への転倒転落予防に対する看護師の関わり方
- 3階西…中山間地域の中核病院に勤務する病棟看護師の働きがいに関する調査
- 手術室…整形病棟看護師と手術室看護師が協働で作成した整形手術前チェックリストガイドの効果



緩和ケア院内研修会

緩和ケア療法委員会は、年に一度外部講師を招いて職員を対象に研修会を行っています。今年は趣向を変えてプロミュージシャンの白築純さんを招き、「トーク&ライブ」を行いました。白築さんご自身が、現在抗がん剤治療をしながらも、雲南市を拠点に精力的に音楽活動をしておられ、ぜひ当院でも素敵な歌声と共に、言葉を通してのちのメッセージを届けたいと思いませんかと企画しました。当院初の試みで「新棟エントランスホール」を会場に開催しました。NHK連続テレビ小説「だんだん」で歌われた「いのちの歌」から始まり、一気に白築さんの世界に引き込まれていきました。当院で旅立たれたおばあさんの思い出話や、闘病中にできた新曲、また会場内のみんなが「たなばたさま」を歌ったりと、1時間でしたが心がほっこりとする楽しい時間を過ごしました。会場内では感動して涙する人もいました。

※緩和ケアとは
生命を脅かす病気にかかっている患者さんとそのご家族に対して、肉体的・精神的苦痛を和らげ、生活の質(QOL)を改善していくためのアプローチです。





平成30年7月豪雨が発生し、7月8日(日)から10日(火)までの3日間、市立病院D.M.A.T(災害時派遣医療チーム)が被災地の広島県へ出動しました。

7月8日に島根県D.M.A.T調整本部からの出動要請を受け、資材と装備を救急車に搬入し隊員5人(医師1人、看護師2人、業務調整員2人)

西日本豪雨

災害派遣

平成30年7月豪雨が発生し、7月8日(日)から10日(火)までの3日間、市立病院D.M.A.T(災害時派遣医療チーム)が被災地の広島県へ出動しました。約4時間かけて参集拠点兼活動拠点本部の福山市市民病院に到着し、現在の被害状況や翌日の活動内容について確認しました。

翌9日(月)の午前は、土砂災害により水源地に深刻な被害を受けて断水している尾道市・三原市へ移動し、医療機関が機能しているか、また透析の対応ができていないのかなどの情報を収集し、本部へ報告しました。午後は地元三原市の保健師とともに4カ所の避難所を巡回し、避難者の健康状態の確認などを行いました。

最終日の10日(火)は、再度三原市へ行き、前日訪問した施設の経過情報や前日確認ができなかった透析施設の情報を収集し、本部へ報告しました。その後、撤収に向けて準備を行い、17時ごろに帰院しました。

今回出動した各医療機関は、建物や水道以外のライフラインの被害はなかったですが、水道が使えないため外来診療や手術の制限、入院患者の転院、トイレの集約や井

戸水の使用、エアコンの制限(熱中症に注意した形)など極力水を使わないようにされていました。自衛隊や市からの供給があるとはいえ安定供給は確保されず、水道復旧の目途が立たない中、貯水槽の残量を常に意識した病院運営に大変苦労されていました。

また、巡回した避難所の方々は比較的お元気でしたが、自宅に帰る目途が立たず不安な様子でした。今後の問題として、常時服用している薬がなくなる、避難所が体育館のためエアコンがない、自発的に発生した避難所のため市の職員が常駐していないなどの課題が浮き彫りになり、避難所別に詳細な情報を保健師と共有することがとても重要だと感じました。

今回の出動は熊本地震の出動時と比べ、出発までの準備時間は短縮できました。また、隊員を増員したことによる院内外の連絡・報告体制が整備され、活動がスムーズにできました。

災害というと地震がまず頭に浮かびますが、今回のように地震以外にも病院機能にダメージを受けることがあり、さまざまな想定訓練を通じ平



派遣場所の確認



病院への聞き取り調査



避難所調査の様子



派遣メンバー

時から備えておくことが重要だと改めて感じました。また、訪問した施設のD.M.A.T隊員には、丁寧に対応していただき、必要な情報を詳細に伝達してもらえとても参考になりました。

最後に被災された方にお見舞い申し上げます。一日も早く元の生活に戻られることをお祈りします。

新本館棟紹介

回復期リハビリテーション病棟編 (4階東病棟)

脳血管障害や骨折の手術のための急性期で治療を受けて、病状が安定し始めて、発症から2ヵ月後の状態を回復期と言います。

この回復期と言われる時期に集中的なリハビリテーションを行うことで、低下した能力を改善、獲得するための病棟を回復期リハビリテーション病棟と言います。

新本館棟への移転を機に、回復期リハビリテーション病棟の充実を図りましたので紹介します。

4階東病棟では、回復期対象の患者さんに対して毎日(365日)機能の回復や日常生活での必要な動作の改善を図り、社会や家庭への復帰をめざしています。

家庭や社会復帰をめざして訓練を行いますので、訓練室のリハビリだけでなく、入院生活そのものがリハビリとなります。

患者さんのそれぞれの目標に基づいて、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、介護士、相談員などで定期的に情報共有を行い、できる日常生活動作を評価していきます。

新4階東病棟には、リハビリ室が病棟内にできました。また、他の病棟に比べ廊下が幅広くとっており、歩行練習も棟内で行っていただけるようになっています。

シャワー室の他に浴室に浴槽のスペースを設け、在宅に近い環境も整備しました。

ここでは、入浴訓練で実際に浴槽に入ることもできるようになっており、家庭での環境に近づけています。

病棟内には、3カ所のデイコーナーを設け、ゆったりとしたスペースで患者さんと面会することができるようになりました。4階の病棟であることから、眺めはとても良く、大東町のきれいな町並みを眺むことができます。

これまでの病棟は、リハビリ室が離れており、患者さんのリハビリの様子が見えない状況でしたが、現在は1日1日進歩される様子を間近で見させていただけるようになりました。

患者さん、ご家族に寄り添えるよう、スタッフ一同リハビリを行いながら関わらせていただいております。皆様のご意見をいただきながら、頑張りしたいと思います。

